



# ● 関西大学第一高等学校・第一中学校が創立 100 周年 心豊かな個性を育てる 人間教育の伝統と未来

「考動」するリーダーを育成する教育を探求

- 川崎 亨** ・株式会社ロイヤルホテル 代表取締役社長  
**池内 啓三** ・学校法人関西大学 理事長  
**橋本 定樹** ・関西大学第一高等学校・関西大学第一中学校 校長

1913年、関西甲種商業学校として開校した関西大学第一高等学校・第一中学校(以下、一高・一中)が、2013年11月2日、創立100周年の節目を迎えた。関西大学併設校として「知育・徳育・体育の高度に調和した人間教育をめざす」ことを教育目標に、多くの有為な人材を送り出してきた。1世紀の歴史を経てもなお、「考動」するリーダーを育成する新たな教育のあり方を探求し続けている。実業界で活躍する卒業生・川崎亨ロイヤルホテル社長、池内啓三理事長、橋本定樹校長が、同校の過去・現在・未来について語り合った。



## ◆ グレーの制服が緑の中を。硬派な男子校

**川崎** 一高・一中の校内に入るのは卒業以来45年ぶりです。まだ一中の生徒だった時に、一高の先輩で太平洋単独横断を果たした海洋冒険家の堀江謙一さんの講演を、屋外講堂で聞いたのを思い出しました。

**橋本** 屋外講堂は現在の100周年プールがある場所に建てたはず。久しぶりにご訪問いただいた本校の印象はいかがですか？

**川崎** 綺麗になっていて、驚きました。昔は建物も少なく、周囲には緑が多く、その中をチャコールグレーの制服を着た男子生徒の一団が歩いて来るという風景がありました。

私は軟式テニス部でしたが、練習が非常に厳しく、とにかく走ってばかり。授業が終わった途端にコートまで走って行かなければ怒られるたいへん硬派な部でした。私が入学した当時は正門入口のところに綺麗なテニスコートがあって、その横で日本拳法部が稽古をしていました。当時から拳法部は強かったですね。それから、ヨット部も強かった。部員は少なかったけれど、国体の常連でした。運動部はどこも校地の起伏を利用してトレーニングをしていました。スポーツが盛んで硬派、本当にそういう雰囲気が私には居心地が良かったですね。

**池内** 勉学の方はいかがでしたか？

**川崎** 私が英語をすごく好きになったのは中学の先生のおかげです。今でもありがたいと思っています。詰め込みの暗記ではなく、英語の歌を聴かせてくれたり、教え方が変わっていました。出合いが楽しかったおかげで、英語が好きになれたのだと思います。

## ◆ 良き伝統は守りつつ弛まぬ改革

**川崎** 現在の一高・一中ではどのような教育をされているのでしょうか？

**橋本** 教育方針である「正義を重んじ誠実を貫く教育」を推進し、「知育・徳育・体育の高度に調和した人間教育をめざす」ことを追求していくという基本的な姿勢はずっと変わっていません。その上で、これまで守ってきた良い伝統を大切にしながら、新しいものを取り入れるようにしています。英語は、現在も特に力を入れている教科です。英語検定を中学校では毎年、高校では3年間で2回、全生徒に受験させています。高校ではTOEFL-iBTにも挑戦しています。

また、進学校の中には7時間目、8時間目まで授業をする学校が多くなっていますが、それに追随せず、これまで通り、授業は6時間目までとし、放課後の2時間は課外活動の時間として確保しています。友達同士、先輩後輩の付き合いなど、人間関係を鍛える場としては、課外活動が一番良いですから。部活動には中学生はほぼ全員、高校生は約9割の生徒が参加しています。部活動に所属していない生徒も、多くはバレエや音楽など校外の活動をしています。夕方までに授業が終わって、勉強との両立ができるということは、子供達が本校を志望する理由の1つになっています。

併設校は大学につながっていることで、いわゆる受験対策偏重ではないという環境があります。そのことによるゆとりを、生徒には自分の人生の大切な時間ととらえて、積極的に充実した学園生活を過ごしてほしいと思っています。

## ◆ 併設校3校で切磋琢磨し、教育の質の向上を

**池内** 硬派な学生時代を過ごされた川崎社長からすると、一高・一中の男女共学化は、大変な驚きだったのではないですか？

**川崎** その通りです。男女共学になったのはいつからですか？

**橋本** 1995年に中学に女子が初めて入学し、高校は1998年からです。私が本校で教えるようになった1981年には、まだ男子校らしいパンカラな雰囲気が溢れていましたが、男女共学になって学校はやはり大きく変わりました。

**川崎** 一高・一中の歴史の中で、男女共学化以外に大きな変化というと、何が挙げられるのでしょうか。

**池内** 一高・一中だけの話ではありませんが、学校法人としては2008年に北陽高等学校を併設校とし、2010年に高槻ミュージックキャンパスに初等部から高等部までを、北陽キャンパスに北陽中学校を開校し、一高・一中と合わせて併設校を3つにしたということが挙げられます。

**川崎** 一高・一中にとっては、併設校が増えることは何か影響がありましたか。

**橋本** 心理的な影響が大きいと思います。兄弟校ができ、お兄さんとしてしっかりしなければいけないという意識が芽生えたように思います。

**池内** 他の2校は、一高・一中に追いつけ追い越せでやっていますからね。3校の校長先生には、私からそれぞれの特長を出して競争しながら高めあっていただきたいと思います。



エスカレーター式で大学まで進学して苦勞知らず、という見方をされることもありますが、中高大一貫教育には良いところがあり、意義があると私は思っています。(川崎)

高等部は「安全科学科」という進学型の専門教育をしていて、1万2000字の卒業論文を仕上げるプロジェクト科目を設けています。この科目では自分で課題を見つけ、調査・分析を行い、自ら考え行動する力を伸ばします。この卒業論文が「本当に高校生が書いたのか？」と思うくらいよく書いていて、大学の教員の評価も非常に高くなっています。

北陽高等学校には、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を取ることにトライしてみませんか、と相談しているところです。

さて、では一高は何を目指すのか。英語教育に特化するのも良いでしょう。あるいは、国際バカロレア資格を取る教育課程を作るぐらいの思い切った挑戦をしたほうがよいと私は思っています。1学年10クラスあるうちの1、2クラスでいいから、一高にしかない教育の特長を打ち出してほしいですね。

併設校にはしっかりした考え方と、高い学習意欲を持った生徒を育てていただき、その生徒達に関西大学の中核を担うリーダー的存在になってもらうことが理想だと私は思っています。併設校から大学への入学条件は教授会が決めることですが、校長先生の推薦があれば全員大学に入学させても良いのではないかと。そのためには、大学生たるにふさわしい学力を備えた人材を育て、自信を持って送り出す。この信頼関係を大学と併設校との間でしっかりと築くことができれば、学校長の推薦制度を導入できるのではないのでしょうか。

また、理事長としての本音を申し上げると、高い学力を持った併設校の生徒が他大学に進むことは残念であると思っています。医学部など関西大学に無い学部はやむを得ないですが、併設校で育った優秀な生徒には、関西大学をしっかり支えてほしいと考えています。

◆豊かな感動体験が個性を磨く

川崎 現在の一高・一中はどのような生徒が多いのですか？

橋本 一人一人非常に個性ある生徒が集まっていると思います。

自分の良いところを伸ばしたい、それにふさわしい場所だと思って、本校を選んだ生徒が多いという感じがします。みんな「学校が楽しい」と言っています。明るく青春を謳歌している生徒が多いともいえるでしょう。

川崎 中学、高校で多くの感動体験を得た人は、社会に出るとより魅力のある人物になるような気がします。エスカレーター式で大学まで進学して苦勞知らず、という見方をされることもありますが、中高大一貫教育には良いところがあり、意義があると私は思っています。

橋本 今、社会から求められているのは、コミュニケーション能力ではないでしょうか。集団の中で、周りを観察し、自分の役割を理解し、リードしていけるような人物です。そういった人物を育てるために勉強と課外活動をバランスよく実践し、多くの感動体験ができるようにサポートしていきたい。勉強もするがやりたいことにも打ち込んで、そして大学に行く。それが実践できる場所としての一高の良さを守っていきたくと思っています。教員にはとにかく生徒の「こういう体験がしたい」「こういうことを学びたい」という要求には可能な限り応えていきたいと思います。

◆身近な先輩の存在が、良い刺激に

池内 セっかく大学がすぐそばにあるわけですから、大学と高校が今以上に緊密な関係を築けば、学習・課外活動・学校生活などあらゆる面において、生徒の力をもっと伸ばすことができるだろうと思っています。大学の授業を中学生や高校生が体験できるような交流ももっと盛んにできるでしょう。高大連携を多面的にもう一步進めることを考えていきたいですね。

橋本 課外活動ではアメリカンフットボール部や陸上競技部などで、大学とのタイアップがうまくいっているようです。また、アイスホッケー部は以前はいろいろな場所を転々として練習していましたが、今ではアイスアリーナで週5回練習できるので、関西ナンバーワンチームになりました。

また、学習面でもすぐ近くに年齢の近い先輩がいることが生徒にはよい刺激になっています。学年が上がる中で、勉強する意欲をなくしてしまう生徒がいます。そのような生徒のモチベーションをいかに引き上げていくか。中学生に将来の仕事を考えさせることは難しいですが、先輩の大学生や社会人の卒業生を招いて、自身が中学・高校ではどうしていたかといったことを

話してもらうと、中学生も熱心に耳を傾けています。

◆中高大一貫だからできる教育がある

川崎 一高・一中の将来について、どんなビジョンをお持ちなのか、OBとして興味を持っています。

橋本 これからを考えると、全体的には良い伝統は大切にしながら、そこにキラリと光る何かをほしいと思っています。また、併設校3校が切磋琢磨し、交流も活発になるようにしていきたいと考えています。

池内 中高大一貫の10年間の教育は、特に多感な中学時代に、仮に子供達が不適応や問題を起こしてしまうことがあっても、しっかりとケアして時間をかけて立ち直りを見守ることができ、中学から大学生活まで視野に入れて一人一人の生徒に寄り添って全人的な教育を行うことができる。これは中高大一貫教育だからこそその強みだといえます。10年間の教育は相当面白い人材が育てられると思っています。大学までの一貫教育を基軸に据え、中高大が連携し、生徒一人一人を大切に教育を関西大学の売りにしたいと私は思っています。



教員にはとにかく生徒の「こういう体験がしたい」「こういうことを学びたい」という要求には可能な限り応えていきたいと思います。(橋本)

川崎 私どものロイヤルホテルは老舗のホテルといわれていますが、ずっと古いままというわけにはいきません。新しくして、それでいて古くからのお客さまにも満足してもらうようにしなければなりません。教育はビジネスと異なり、今までのやり方を変えることは大変ですが、変化を恐れず、大学も、一高・一中も新しいことに積極的にチャレンジしていただきたいと期待しています。

橋本 ありがとうございます。ところで、川崎社長と同様に久

中学から大学生活まで視野に入れて一人一人の生徒に寄り添って全人的な教育を行うことができる。これは中高大一貫教育だからこそその強みだといえます。(池内)



しぶりに訪ねた母校のあまりの変化に驚かれるOBはたくさんいらっしゃいます。そこで、100周年を記念して、11月8日に一高・一中の歴史を写真と解説文で紹介する「歴史的景観回顧モニュメント」を正門前に設置しました。1913年に福島学舎でスタートし、天六学舎を経て、1953年に千里山へ移転してきたことや、2004年に現在の正門に整備されたことなど、両校の歴史をたどることができるものになっています。

池内 他にもインターネット環境を整備し、全教室で42インチの大型液晶画面を使い、リモコンの操作で簡単に蓄積してある資料動画から必要なものを呼び出すなど、授業で活用しています。また、プールの建て替え、教室のリニューアルが、2013年の夏休み中に完了しました。

これらの整備のための資金の一部はOBの方々からの募金で賄われています。募金は1億円の目標額を掲げてお願いしたところ、おかげさまで目標額を達成することができました。大変ありがたいことだと感謝しています。卒業生の方々の母校愛の強さを感じました。一高・一中100年の歴史の意義は、優れた見識をもった多くの人材を輩出してきたことにあると思います。学校の未来にその方々のご意見をできる限り反映していきたいと考えています。

川崎 亨(かわさき とおる) 1950年香川県生まれ。62年関西大学第一中学校入学、68年関西大学第一高等学校卒業。73年関西大学法学部を卒業し、株式会社ロイヤルホテル入社。2004年リーガロイヤルホテル大阪総支配人、08年リーガロイヤルホテル京都総支配人を経て、10年株式会社ロイヤルホテル代表取締役社長に就任。

池内 啓三(いけうち けいぞう) 1943年旧満州(中国東北部)生まれ。46年日本に引き揚げ、大阪府に住む。65年関西大学文学部新聞学科を卒業し、学校法人関西大学に奉職。92年評議員、96年総務局長、2000年理事。法人本部長、常務理事、関西大学幼稚園長を経て、08年学校法人関西大学専務理事。12年理事長に就任。

橋本 定樹(はしもと さだき) 1955年大阪府生まれ。74年大阪府立今宮高等学校卒業、78年大阪市立大学理学部地学科卒業。大阪府立西浦高等学校、明浄学院高等学校で地学を教える。81年関西大学第一高等学校・第一中学校に奉職。第一中学校教務主任、第一高等学校教頭、入試対策主任などをを経て、2010年関西大学第一高等学校・第一中学校校長に就任。

▼ 関西大学第一高等学校・第一中学校の歩み

1913 [大正2年] 4月 ● 関西甲種商業学校を福島学舎にて開校	1929 [昭和4年] 9月 ● 関西甲種商業学校が福島学舎より天六学舎に移転	1947 [昭和22年] 4月 ● 関西大学第一中学校開校	1948 [昭和23年] 4月 ● 関西大学附属第一高等学校(通常課程・夜間課程)創設、開校	1953 [昭和28年] 11月 ● 第一高等学校(昼間課程)、天六から千里山に移転	1957 [昭和32年] 11月 ● 第一中学校、千里山に移転 ● 一高・一中の一貫教育を開始	1990 [平成2年] 4月 ● 制服をブレザーに変更	1995 [平成7年] 4月 ● 第一中学校で男女共学が始まる	2013 [平成25年] 11月 ● 第一高等学校・第一中学校100周年記念式典挙行
--	---	-------------------------------------	--	--	--	-----------------------------------	---------------------------------------	--

① [昭和20年] 8月 終戦  
② [昭和39年] 10月 東京オリンピック  
③ [平成元年] 1月 新元号「平成」に

※①・②・④・⑤関西大学年史編纂室蔵。③・⑥・⑦毎日新聞社提供